

じんしょうおよびゆがま  
「陣鐘及び湯釜」

- 指 定 千曲市指定有形文化財（考古資料） 昭和 62 年 1 月 27 日
- 所 在 地 千曲市大字上山田
- 所 有 者 個人
- 概 要 (1) 陣鐘（一对） <sup>おうどうせい</sup>黄銅製の陣鐘です。やや小ぶりですが肉厚の厚い造りで保存状態も良好です。  
(2) 湯釜 肩の張る中ぶりの手取形の湯釜で鑄鉄製。地紋はなく、底部近くに鑄型のつぎ目があります。底には小さな棒状の三足がついていて、湯口は肩の上についています。取手付は湯口の上つけ根と一对になるようにつけられていて、取手は練鉄製でやや小ぶりです。<sup>ふた</sup>蓋があり、<sup>つまみ</sup>摘は板状で孔をあけ<sup>ちゅう</sup>鈕がついています。
- 寸法 (1) 陣鐘 直径 19.1 cm、肉厚 2.5 cm  
(2) 湯釜 器高 21 cm、足 3.5 cm、最大径 25 cm、湯口 2.9 cm  
口径 14.2 cm、蓋径 15.5 cm
- 時 代 室町時代末期
- 公 開 個人所有のため非公開

所蔵者宅には大正 11 年 11 月に書いた「家宝所蔵」の文書があり、これによると天保年間（1830～1844）に発掘したものであることが記されているだけで、言い伝えとして残されているものを合わせると、<sup>じょうのこし</sup>城野腰の<sup>せきぞうこやすじぞうぼきつりゅうぞう</sup>石造子安地藏菩薩立像（市指定文化財）の下に埋蔵されていたものと思われます。言い伝えによると、天保年間、畑の真ん中に安置されていた石造子安地藏菩薩立像を耕作の邪魔になるからと畑の隅に移した際、その下に石で囲まれた箱らしきものがあり、その中から陣鐘と湯釜が出土したと伝えられています。なお湯釜の内部には金の小粒がぎっしりと詰まっていたとの伝承もあります。

